

# 業界の

# 声



● 山梨県印刷工業組合

理事長 笠井 健夫氏

## 業界の景況は？

まず一つは、組合から脱退する企業が増えてきているということですが。これは、長引く景気低迷により、決して高額ではない賦課金ですら、経費として削減していかなければならない現状があるからです。また、後継者不足も脱退原因の一つです。企業の経営自体が厳しいため、後継者のことを危惧して経営を辞めてしまう企業もあります。そのため、組合員数も全盛期に比べ3割ほど減少しました。

二つ目は、売上の減少です。これは、仕事量の減少により競争が激化し、仕事単価が著しく下落してきていることが原因です。売上高も最盛期に比べ、4割ほど減少しました。

## 今後の展開は？

ここ最近の動きとして、山梨県発注の印刷物の契約形態が『物品』から『製造請負』に変更されました。これは、当組合が5年ほど前から山梨県へ陳情していた案件です。契約形態が『物品 製造請負』に変更されることによって、入札に関する最低制限価格制度の導入が可能となります。これにより、著しく下落している仕事単価を適正価格に戻すことができ、可能性が出てきました。今後は、全国でもまだ少ない、印刷物に対する『最低制限価格』の導入の実現を目指していきたいと思っております。

その他にも、『MUD(メディア・ユニバーサル・デザイン)』事業を積極的に推進していきたいと考えております。『MUD』とは、文字と色を印刷業界として見やすい印刷物を提供し、より良い社会環境づくりに貢献することを目的とする考え方であります。色覚障害のある方にもわかりやすい印刷物をこれから提供していきたいと思っております。



色覚障害者にも見やすいカレンダー